

東日本大震災

笠間市でも家屋などに大きな被害

3月11日の東日本大震災による市内の被害状況は、人的被害については負傷者50人程度に留まり、幸いにして死者はなかった。しかし、電気や水道などのライフラインが寸断されたことや余震に対する不安などから、11日夜には2,000人以上の市民が友部中学校体育館ほか8箇所の避難所に自主的に避難した。

一方、家屋の被害は大きく、損壊した家屋が5,000棟を超え、主に屋根の瓦が壊れたり大谷石塀が倒壊したりする被害が目立った。

また、公共施設への被害も大きく、なかでも笠間市役所笠間支所が壊滅的な被害を受け使用不能になったほか、公民館や図書館など安全が確認できるまで臨時休館となる施設が相次いだ。



大きな被害を受け使用不能（笠間市役所笠間支所）



大谷石塀が倒壊（下郷地区）



給水のため、たくさんの市民が詰めかけた（笠間市役所本所）



避難所の様子（笠間小学校体育館）

※被災写真については、27ページにも掲載しています。

「がんばろう かさま」

復旧を目指して職員一丸となって取り組みます

3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災では、想像を絶する被害と多くの方々の尊い生命が犠牲になりました。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

そして、未だ行方不明の方々の早期発見を願うとともに被災された方々に心から御見舞い申し上げます。

今回の地震は、笠間市においてもライフライン、公共施設、家屋等に膨大な被害をもたらし、地震直後から行政の対応に対しさまざまなご要望ご意見を

いただきました。

完全復旧までには時間を要しますが、一刻も早い復旧を目指して職員一同全力を挙げて取り組んでまいります。この地震を期に原点に戻って災害に強い安全なまちづくりの対策を進めてまいります。

震災直後よりご協力をいただいているボランティアの方々や多くの方々からの支援物資、義援金、そして姉妹都市等の心温まるご支援に心より感謝申し上げます。

笠間市長 山口 伸樹